

# 一笑懸命

うちだ ふみこ  
内田 文子 ●電機連合 中央執行委員

私の好きな言葉の一つに「一笑懸命」があります。これはある落語家さんの講演後にいただいた色紙の一枚に書かれていた言葉です。「同じ一生懸命にやるなら『笑顔』で取り組もう」、「何があっても負けずに笑って頑張ろう」、とてもいい言葉だと思い、自己紹介の時によく使うようになりました。

振り返ってみると私が「一笑懸命」に取り組んだことに、PTA活動があります。周りからどの様に見えていたかは分かりませんが、「一笑懸命」にやっている人がどの様に見えたかは分かります。

私はふたりの子どもが小学校を卒業する9年間、ほぼ広報部でPTA活動に参加しました。そして、いろいろな部長さん（リーダー）と一緒に活動させてもらいました。PTA活動は毎年メンバーが変わり、その年々の部長さんによって、部会の雰囲気も変わりました。特に、明るく・元気に・一笑懸命（いつも笑顔で一生懸命）にやってくれる部長さんの時は、部会はずっと笑いがあり、メンバーはとても協力的でパワフルでした。リーダーが「一笑懸命」にやっているから、まわりも自然と自分のできることを積極的にやろうという気になれたのだと思います。この部長さんとは2回一緒に活動をさせてもらいましたが、メンバーは違っても2回とも同じような雰囲気でした。「一笑懸命」は周りをいい方向に巻き込んでいくのだと思います。広報部で私は主に紙面づくりを担当させてもらい、締め切りギリギリで徹夜して仕上げた時もありましたが、自分の担当した紙面が広報誌に

なるのは達成感もあってとても楽しかったです。部会も紙面作りも楽しかった、だから長く続けられたのだと思います。

話は少し変わりますが、小学校最後の昨年度は、「広報部」と「卒業対策委員（卒対）」の掛け持ちとなり、慌ただしい1年になりました。かなりの時間と労力をかけ、みんなで一笑懸命に「卒業感謝の会」の準備を進めてきましたが、開催直前になって、「臨時休校の要請」により、中止となりました。当然のことながら、学校側も急な対応でバタバタとしていました。

それでも子どもたちのために、できる限りのことをしようと学校側と掛け合い、卒対からの記念品などを、渡す時間をもらうことができました。感謝の会で上映する予定だった「スライドショー」と「6年間の思い出ムービー」（私が担任）はお蔵入りかと思っていましたが、担任の先生の配慮もあり、最終日のお昼休みの時間を使って、それぞれの教室で子どもたちに観てもらうことができました。担任の先生から「卒対のお母さんたちが、一笑懸命にやってくれていたのも、我々もできる限り協力させてもらいました」と言ってもらえたことがとてもうれしかったです。

今はコロナ禍で、当たり前に行っていたことができなくなり、改めてその有難みに感謝する日々です。子どもたちも6月からは分散登校ですが、やっと学校に通えるようになり、友達に会えることがうれしいようで笑顔が増えました。

これからも今ある環境の中で「一笑懸命」を大事にしていきたいと改めて思っています。